

米欧亜回覧

第88号

発行

特定非営利活動法人

米欧亜回覧の会

編集委員会

「岩倉使節団の群像」他、新春に相次いで刊行！

本会の設立二十周年記念グラウンドシンポジウムは、二〇一六年の十二月二日から四日まで、一橋の学術総合センターで行われたが、その記録が二冊の本として新春に相次いで刊行されることになった。一冊はミネルヴァ書房から一月に「岩倉使節団の群像―日本近代化のパイオニア」として、もう一冊は本会から報告書として「岩倉使節団と日本の近代」(仮題)

として、二月初旬に出版の予定である。

シンポジウムからはもう二年も経ってしまったが、大きなテーマを三つも掲げただけに、一冊の本では収容しきれず、紆余曲折の末、二冊の本になった次第である。ミネルヴァ本は、一般書として書店で求めることができ、本会版の本は当会での頒布形式をとるので、期待していたいただきたい。

全体例会は出版記念講演会と祝賀レセプション

二月十四日(木)十八時から日比谷図書文化館で

ここ数年はミニオペレッタ風の華やかな新年会が続いたが、二〇一九年は一休みにして、出版記念も兼ねた真面目で簡素な全体例会を二月十四日(木)、一八時から 日比谷図書文化館で開催することになった。会は二部構成で、一部は講演例会、「岩倉使節団」の原点に回帰して、大河ドラマ「西郷どん」で公家らしからぬ異色の怪人

政治家として人気？を博した「岩倉具視の実像」に迫るべく、國學院大学の坂本一登教授をお招きして「講演会」を開催する。また、二部では出版記念の祝賀レセプションとしてビュッフェスタイルの宴を開くことになった。

講師の坂本一登教授は、日本政治史の専攻、「伊藤博文と明治国家形成」(講談社学術文庫)などの著書があるが、近刊としては山川出版社から「岩倉具視」がある。レセプションにもご出席されるので、岩倉具視をはじめ大保利通、木戸孝允、伊藤博文はむろん「岩倉使節団の群像」を話題にしながらかつ談じる会になることが期待される。

なお、会場の関係で先着七十名限定になるので早めにお申し込みを願います。

ホームページを見てください！

内容充実・多彩な催しの案内
部会などの「催し予定」は判り易くカレンダー表示

され、部会報告は「最近の投稿」として掲載されています。是非、アクセスしてください。

更に、会員用パスワードで「会員のページ」に入ると部会での詳細なレジュメや会報のバックナンバーが掲載されて居ます。

米欧亜回覧の会⇒検索 または <http://www.iwakura-mission.gr.jp>

大河ドラマ「西郷どん」が終わった。視聴率が低かったという原因は何か。原作・林真理子、脚本・中園ミホ、音楽・富貴晴美と、女性トリオの作品であり、「もうこの辺でよからうかい」という語りも息子の菊次郎であって、女性や子供の視点からということが、歴史好きの男たち特にシニア層にとって物足りなく敬遠されたのかも知れない。

しかし、私にはとても興味のあるドラマであった。とりわけ岩倉具視に鶴瓶を起用したことは斬新であり、外見からして実像のイメージと違い異論も多いが、筋としては史実からそう離れてはおらず知られざる岩倉具視の存在を一般の市民にも知らせた意味は大きかったと思う。

とはいえ、むろん大いに不満は残る。ドラマだから致し方ないが、脚色が多くてどこまでがホントかどうかかわからないし、維新革命の立役者たる傑物たちを描くのにリスペクトや品位に欠ける。「あんなオチャカラケなど見る気がしない」というアカデミック筋はむろん、正統派歴史ドラマの

岩倉使節団を軽視しては日本の近代史は語れない

泉 三郎

ファンにそっぽを向かれてしまった、というのが実情であろうか。
さて、当会としてはこれにどう反応すべきか。西郷という留守政府のキーマンが主役だからやむを得ないとは思いますが、岩倉使節団はほとんど素通りであり、しかも解釈が浅薄で矮小化されている。使節の目的がまるで条約改正だけにあるかのような印象であり、大久保や木戸のセリフでも「条約改正に失敗して……」とだけ表現されて終わっている。

この手の皮相で生半可な認識は歴史学者の中にも今なお少なからず存在しており、その影響下にいる人も多い。岩倉使節団の最大の目的は新たな「国のかたち」をどうすべきかの「青写真」を求めることであり、その歴史的な意義は十分に果たされたのであって、その認識が欠落している。日本近代史を語るには岩倉使節団を正しく理解することが必須であり、その意味でも当会の諸活動は重要であり、このたび出版される本がその一翼を担うことを切に祈りたい。

二〇一八年十一月一日〜三日 佐賀、歴史と唐津くんち、そして、食道楽の旅

十五名の参加を得て、和気藹々のうち、幸い天気にも恵まれ、大変に実りある旅となった。これも、有田在住の会員・蒲地孝典氏の周到な手作りの旅行行程と各所での名解説なしには成り立ちえなかったことに感謝を表したい。恐らく、過去の当会の歴史紀行でも筆頭に入る充実感があつた旅だった。



久米邦武生誕地

初日は、佐賀市八幡小路にある久米邦武生誕地訪問から始まった。次いで「肥前さが幕末維新博覧会」では、博覧会責任者に迎えられ、幕末の佐賀の工業力が、何故、如何にして日本一になり得たかを映像を使って、鍋島閑叟と七賢人を中心に説明された。長崎街道沿いにある、博覧会の



さがレトロ館の前で記念写真



初日の昼食は、さがレトロ館の和魂洋才御膳、蒲地氏が企画・復元した美しい伊万里焼を実際に使った特別コース料理

パピリオン「リアル弘道館」と瀟洒な旧古賀銀行では、偶々、久米邦武特別展が開催されていた。昼食は、館長が蒲地氏の親友の「さがレトロ館」の特別料理を楽しんだ。佐賀城本丸歴史館は、三百二十畳の大広間を持つ本丸御殿が圧巻。鍋島直正は、家臣と同じ段の畳に座った。佐野常民記念館は明治日本の産業革命遺産(世界遺産)となった「三重津海

軍所跡」を望む早津江川沿いに位置し、長崎警備の役にあつた佐賀藩の軍事力強化の基地であつた。
第一日目の最後は、有名な民間の英知を取り入れた武雄市図書館で、当会の「岩倉使節団の米欧回覧」(DVD)を、特別寄贈したことに対する市の教育委員長からの御礼の儀式と、教育利用の決意表明があつた。当会副理事長が答礼した。



唐津くんちの宵曳山見物と鱧(あら)料理で宴

二日目は、有田の泉山磁石場の見学に始まり、陶山神社と有田陶磁器伸通りの有田焼・窯元の深川製磁店で磁器の名品を見学して、九州陶磁文化館で有田の陶磁器の歴史と名品を学ぶ。次いで、蒲地氏の「ギヤラリー花伝」で有田陶磁器の名品を眺めながら茶菓をいただく。実は、蒲地氏は幕末明治期に海外に輸出された、有田・伊万里焼の名品の里帰り発掘屋で、相当な名品を欧米から里帰りさせた当本人である。

午後、唐津に入り、唐津焼の中里太郎衛門の陶房を案内される。唐津焼は茶人にも愛された陶器である。有田磁器も唐津焼も、秀吉の朝鮮遠征で、連れ帰ったとされる。陶工たちが発祥である。唐津城は下から眺めつつ、虹の松原を散策し、

潮騒の音を楽しみながら最後の宵曳山見物を兼ねたくんち料理屋に向かう。鱧(あら)は、関西ではくえと呼ばれる高級魚で、丸焼きを中心とした数々の料理に、当然、宴は高まり、歌合戦も始まり大盛會となった。

最終日は、秀吉が朝鮮征伐の夢があと、名護屋城址跡の見学である。思ったより、豪壮な城で、大阪城より大きく、築城的にも進んだ城であつた。何しろ、慶長、文禄の役の朝鮮遠征で、全国から二十万人の兵が集まり、各大名が陣地を張り競い、俄か都市が出現、当時世界でも、パリ、ロンドンに並ぶ巨大城下都市が出現して、秀吉の死と共に、七年であつたという間に消えたのである。
この日天気晴朗で、百三十キロ先にある対馬も遠望でき、千艘の船が休める浦が下に臨め、絶好の遠征地であつた。



名護屋城址、玄海はるかに津島・壱岐

☆新会員自己紹介☆

たことが分かる。昼食の呼子の名物料理・鳥賊尽くしで乾杯して、旅を終えた。
(小野博正)

小林良

建築設計を生業としております、小林良と申します。先日、同郷の旧友であるゆうきよしなり氏より紹介いただき、入会させていただきま

した。
私は学生時代に建築史を専攻しており、十九世紀末のスロヴェニアの建築家を研究していました。岩倉使節団が渡欧した頃に生まれた建築家なので、直接関わりはないのですが、歴史が紡いでいる「ひと・もの・こと」に触れる楽しさは同じかなと思っております。これから宜しくおねがいいたします。

ストックホルム訪問記

ノーベル賞授賞式が行われるストックホルムを七月に訪問しました。岩倉具視使節団の一行十一人がコペンハーゲンからストックホルムに到着したのが一八七三年四月。

お目当ては一行が宿泊したというHOTEL RYDBERG。尋ね尋ねていくと、何と建物は健在でした。一八五〇年建造の同ホテルは一九一四年に銀行に改装したものの、建物自体は昔のまま。隣のオペラハウスも現役とのこと。その広場にある通称「北のライオン」Gustav Adolf二世の銅像もそのまま。また、『実記』にある「同府旅館前商店の景」もほぼ、岩倉らが見た実景の面影を残しています。岩倉の訪問時、アルフレッド・ノーベル(1833~1896)は四十歳。すでにダイナマイト事業は成功して名士になってました。もしかすると、一行には会っていたのでしょうか。



濱地道雄 記

米欧回覧実記 輪読会報告



担当幹事 岩崎 洋三

■九月五日 実記輪読会

第10巻「コロンビヤ」県の総説 pp.193~203 (富田兼任氏) 華盛頓(ワシントンDC:コロンビヤ県)は北緯38度53分35秒、西経77度2分5秒に地に位置し、山形県酒田市とほぼ同じ緯度である。連邦政府の首都としてメリーランド州とバージニア州に跨る地に北を頂点とする十マイル四方のダイヤモンド形として形成され、その後一八四七年にポトマック河西岸部はバージニア州に返還された。使節団訪問時に現在のワシントンDCが形成されていたことになる。

キャピタル(国会議事堂)、大統領館(ホワイトハウス)、財務省、陸軍省、国務省、中央郵便局、パテントオフィス、農務省、スミソニアン協会、コロンビヤ学校、海軍省、ジョージタウンの天文台、ワシントンモニュメント、アーリントン墓地、マウントバーノン(ワシントン大統領旧宅)等を訪問、見学すると見較べると、位置が変わっ

ていると推測されるものもあるが、多くのものが使節団訪問時に現存の建造物が存在していたことが分かる。

報告終了後、富田氏は先祖で岩倉使節団に参加した租税権大属富田命保の随行日記原本を披露した。

■十月十日 実記輪読会 第二巻「ワシントン」市ノ記上 (富田兼任氏) 一月二十一日ワシントンに到着、アーリントンホテルに投宿。大統領夫人から歓迎の花束が届いて感激する。ホテルはホワイトハウスの北側ラファイエットパークから北北東に伸びるヴァーモントアベニューにあった。『実記』の、「ホワイトハウスは公園一つ隔てた(ホテルの西隣)」の記載は正確ではない。ホテルから見ると南側になる。また、通りを隔てたジョンソンハウスを事務所として使つてよいと米国側が便宜を図ってくれる。

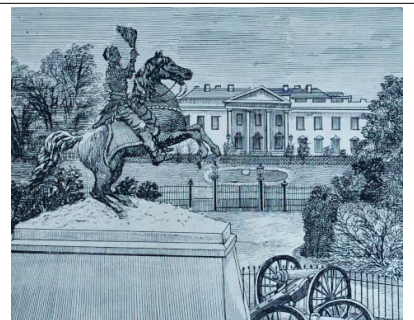
一月二十五日、ホワイトハウスでグラント大統領に謁見。大使・副使は衣冠、五人

の書記官は直垂、皆帯剣し、大使が天皇の国書を大統領に手交した。二十七日、キャピタル(国会議事堂)訪問。下院において議長と大使がスピーチ交換の後、中央ドーム下部(ロトンダ)を見学、コロンプス上陸・ワシントン大統領選出・独立宣言起草等十枚の絵画を見る。二月三日、国務省で第一回条約改正交渉会議開催、しかし、国家元首の委任状なしでは交渉できない、と指摘を受ける。このため、十二、十三日と大久保副使、伊藤副使が相次いで委任状を取りに帰国の途に就く。

十七日、廃兵院を訪問、二十四日、米側が正副大統領、各省长官臨席の下招宴を開く。なお、輪読会では現地地撮影したキャピタル内部(ロトンダ等)、(前述の「西隣」を頼つたため)誤認したホテルの最上階から財務省越しに見たホワイトハウス等現地の様子を写真で紹介した。

吉原氏より『実記』に加え当時の新聞記事、大使情報として木戸日記の記載も含めて、日付を縦軸、各日記の記述を横軸とした比較表が提示された。今後これら史料に富田命保日記も含めて記載してゆくことで、多面的に使節団の行動の記録を把握できることが期待される。なお、この時期富田命保日記によれば、

の書記官は直垂、皆帯剣し、大使が天皇の国書を大統領に手交した。二十七日、キャピタル(国会議事堂)訪問。下院において議長と大使がスピーチ交換の後、中央ドーム下部(ロトンダ)を見学、コロンプス上陸・ワシントン大統領選出・独立宣言起草等十枚の絵画を見る。二月三日、国務省で第一回条約改正交渉会議開催、しかし、国家元首の委任状なしでは交渉できない、と指摘を受ける。このため、十二、十三日と大久保副使、伊藤副使が相次いで委任状を取りに帰国の途に就く。



ホワイトハウスとジャクソンの銅像 (『実記』第11巻)

一月二十八日、二十九日は旅費の精算、とりわけ官費で賄っていた同行學生の私費分の精算を含め手数を費やして旅費精算に従事したとある。

■十一月十四日 実記輪読会

第10巻「ワシントン」市ノ記中(富田兼任氏)

二月二十五日、パテントオフィス(特許庁)、二十一日、印刷局、三月十日、スミソニアン協会視察。スミソニアン協会は一八四六年英国人科学者ジェームズ・スミソニアンが資金を寄贈し設立された、現在では十九ある博物館・美術館・国立博物館からなる世界最大の博物館群で一億三千六百五十万点の文化遺産や標本を所蔵する。キャピタル(国会議事堂)とワシントンモニュメントを東西に結ぶ広大な広場(モール)の両側に博物館・美術館が立ち並び。現在では、特に航空宇宙博物館の人氣が高く、ライト

兄弟が最初に空を飛んだ飛行機、リンドバーグの大西洋横断飛行機、月面に最初に降りたアポロ十一号宇宙船(カプセル)の実物等が展示されている。

三月十三日、市の招待でポトマック川を下りマウントバーノンに赴いた。船中では奏楽、饗応を受け、気候も良く船上から川の両側に咲く花梅桃桜李を愛で楽しい時を過ごした。マウントバーノンは初代大統領ワシントンが異母兄の未亡人より譲り受けた広大な敷地(プランテーション)に旧宅の他、農場、納屋、鍛冶屋等があり、ワシントン大統領とマーサ夫人の墓廟もある。旧宅・墓廟は銅版画を見る限り現在の姿とほぼ同じである。三月十六日、

ジョージタウン(ワシントン市西部にある住環境の良い地区、因みにジョージタウン大学は河野外務大臣の母校)の天文台、十七日、財務省(ホワイトハウス東隣)、二十日、海軍造船所を視察。

富田命保日記によれば、二月二十五日は杉山・福井・吉雄氏と共にアーリントン墓地に行つたとある。本隊(実記ではパテントオフィス視察)とは離れ別行動をしていたようだ。片や三月十三日は海軍所よりポトマック川を下りマウントバーノンに行き夕刻六

時に帰館とあり同一行動であったことが分かる。一行は様々な行動形態を取っていたようで興味深い。

□九月五日 英書輪読会
「ハリス日本滞在記1857.11.27〜11.30」(水谷剛氏)

一行は大名行列並みに下田を出発して待ちに待った江戸への旅を続ける。伊豆から東海道に出て小田原へ大磯へ馬入川へ藤沢へと進んだ。

小田原から藤沢までは家の軒波が連続した一つの家並みである。途中の馬入川を渡る時に左小指を「水蛭」に吸いつかれて出血したので治療を「随行医師」にさせた。

藤沢から更に海岸沿いに行き神奈川へ川崎に到着し、有名な「萬年屋」旅館に宿泊した。ここはペリー提督に随行したピッチンガー牧師が単独で勝手に抜けだし、多摩川から品川に行く寸前に停止させられて帰営した場所である。

品川から高輪経由で宿所の九段下「蕃書調所」に到着した。井上下田奉行から江戸城で將軍謁見するときの諸注意事項や江戸城入場は「威厳」を以て駕籠で向かうことなどを諸注意された。

□十月十日 英書輪読会

「ハリス日本滞在記1857.12.1〜12.6(斎藤恵子氏)」

ハリスは、一八五六年八月に下田に入港して以来、江戸

出府を根気強く求めてきたが、ようやくそれが正式に認められ、一八五七年十一月三十日、江戸の宿舎に落ち着いた。將軍謁見が十二月七日と決定され、その準備のため十二月一日からの日々が費やされた。

十二月一日、土岐丹波守が江戸の接待委員八名を連れてハリス宿舎を表敬訪問。煩瑣な日本の礼法を知る機会となった。大君の政治的権限の実態を知ることにもなった。

江戸でのハリスの世話役信濃守にたいし、「自分は日本の利益を目的としてきた。日本はアメリカ大統領に感謝すべきである」と表明。三日、信濃守が「江戸に不穩の噂あり。外出を控えるよう」と助言し、ハリスは「国際法上確保された権利を制限する約束に応じる気はない」と反論。

ハリスの殉教者的使命感を感じさせる。四日は、西の丸下の堀田邸を訪問。道中、窓からのぞく江戸の女たちを、「人類の母イヴから受け継いだ好奇心の持ち主」と評したのには、二十一世紀の女性としては、コメントを加えたい気になる。

六日は日曜は、終日部屋で折笱書を読み、日本で、キリスト教が解禁されるのを願っている。

□十一月十九日 英書輪読会

「ハリス日本滞在記1857.12.7〜12.16」(大森東亜氏)

ハリスが下田奉行を通じ幕府の要路者と折衝した結果、来日の主要目的である將軍(家定)と謁見し、アメリカ大統領(ピアス)の信任状(親書)を呈する運びとなる。米大統領親書により日本に外国との通商と門戸開放を要請する。

謁見は、三百有余の大名、高官が居並ぶ前で行われる。大君の右手に堀田備中守と閣老五人、左手には大君の兄弟三人がひれ伏す。ハリスは立って挨拶の口上を述べる

と、大君はしつかりした口調で「遠境の処、使節を以て書簡差越し、口上の趣、満足せしめ候、猶幾久しく申し通ずべし、此段大統領に宜しく申し述べし」と応答する。

大君の応答のあつた後、ハリスは大統領親書を堀田外務相に渡す。親書には「日米の絆を強化し、両国の通商が相互の利益となる条約を結ぶこと、そのため大統領はハリスに全幅の信頼を寄せている」とあり、大統領の自署と國務長官の副署が記されている。

謁見を終えた後、ハリスは堀田外務相に通商問題に関し書簡を出すとともに、堀田備中守を訪ね、ハリスの接待役人同席のもと、幕府の今後の

課題について説明する。ハリスは、折しも諸列強は日本を開国させようとしているが、中国とのアヘン戦争など戦争によることなく使節との平和裡での交渉が望ましいとして次の三点を指摘する。即ち、(一)江戸に外国公使を受入れること、(二)幕府の干渉なしに日本人に自由貿易をさせること、(三)開港地を増やすこと。

歴史部会報告



担当幹事
小野 博正

■九月二十五日 憲法三大断

安倍政権が今年中にも憲法改訂案を国会に上程すると伝えられる機会に、一人ひとりが憲法問題を考えるに当たって歴史的事実を押さえて置こうという狙いで開催した。参加者二十一名。

まず、明治の「大日本帝国憲法」の成立過程の歴史的背景を泉三郎氏が説明。維新創業にあたっての「五箇条の御誓文」があり、使節



佐野常民と蒸気船模型 (佐賀旅行)

団帰国直後の大久保利通、木戸孝允二人の夫々の憲法制定を急ぐべしとの建白書。明治十四年の政変を経て、自由民権運動家や大隈重信の急進派を押さえて、伊藤博文が憲法調査に渡欧し、グナイストやシュタイン博士の講義を受けて帰り、日本の歴史・風土に則した憲法を井上毅、伊東己代治、金子堅太郎らと夏島に籠って草案を完成させた。

つぎに、芳野健二氏の「私擬(民間)憲法の歴史を振り返って」の説明。明治十四年政変前後の明治十二〜十四年に五十八件、明治期を通して百件の全国各地で様々な私擬憲法が作られた。日本の民度は大変高かった。その代表格が植木枝盛の「日本国憲法」であり、千葉卓三郎の「五日市憲法」である。

夫々に、民権を保証する憲法となっており、特に植木の憲法は、象徴天皇制、国民主権、自由、平等(男女も)、国民投票による議会制、健康で文化的生活の権利などを網羅しており、終戦直後の私擬憲法「憲法草案要綱」(代表…高野岩三郎、執筆者…鈴木安蔵)に多大な影響を与えた。肝心なのはこの「憲法草案要綱」は、戦争放棄条項こそ無かったが、GHQにも英訳されて渡され、マッカーサー憲法草案にそのまま取り入れられとの評価もある。

最後は、「九条の戦争放棄は、幣原喜重郎首相提案である」(小野博正)との新説。歴史専門家らの現行日本国憲法はGHQによる米国の押しつけ憲法であるとの説に対する反論である。

歴史家・大越哲仁氏が近著の『マッカーサーと幣原首相―憲法九条発案者はだれ

か』の中で、同様な見解を示しており、それが正しいとすれば、戦争放棄の平和憲法も、明治の植木枝盛の憲法草案を終戦後に鈴木安蔵が復権させた。民主主義、言論・思想・宗教の自由、男女平等で、差別を否定して健康で文化的生活の権利を謳う現行の日本国憲法も、実質的にはすべて日本人による構想の憲法であって、押しつけ論はGHQの力を利用しただけの単なる形式論に過ぎないこととなる。改憲論争に際し、再考したい論点である。(文責小野博正)

■十月十五日 鍋島閑叟(直正)と佐賀七藩士(大森東亜氏)

はじめに佐賀藩と佐賀県の地理的特性、歴史の変遷と鍋島氏登場、さらに廃藩置県から佐賀の乱を経て、佐賀県誕生(平成29年人口83万人)までを辿る。

鍋島閑叟は、一八一四年、江戸桜田屋敷で誕生し、十七歳で家督を継ぐまで江戸で過ごす。従兄の島津斉彬など縁戚関係は多面に亘る。家督相続時、藩財政は窮乏下にあり、諸役の儉約令、年貢徴収改革ほか磁器づくり、石炭採掘など産業振興に努める一方、借財整理にも取組み、閑叟は「算盤大名」の異名もとる。佐賀城二の丸が焼失する

も正室の実家(將軍家)からの城再建費支援などもあり、藩財政を持直す。

一八〇八年、英船が蘭船を装って長崎港に不法侵入し薪水等を求めたフェートン号事件がおきる。佐賀藩と長崎奉行が対応不適切とされ、長崎奉行関係者が切腹したほか、閑叟の父藩主斉直は謹慎処分される。閑叟は、長崎御番のため砲台整備、西洋砲術導入、海軍育成、軍艦製造に終生尽力する。

自らオランダ艦やイギリス艦に乗船し、艦船購入のほか蒸気機関工場の設計図などもオランダに求めている。

伊豆江川太郎左衛門のもとへ本島藤太夫らを派遣し研究させ、三年がかりで国産初の反射炉をつくり洋式大砲を鑄造し、幕府の注文も受ける。事業を評価され幕府からの借入十両は免除される。完成まで度重なる失敗もあったが、閑叟は「西欧人も人なり、佐賀人も人なり、薩摩人も人なり、挫けずますます研究せよ」と励ましたという。

幕府の長崎海軍伝習所閉鎖後、佐野常民の建言を受け、藩に三重津海軍所を開設し、航海、造船等のほか、国産初の蒸気船も完成させる。

幕末から維新にかけて閑叟は旗色を鮮明にせず、「肥前の妖怪」という小説を司馬遼

太郎に書かせる。その背景に大政奉還と引換えに朝廷を戴き、内戦を避け、外国から日本を守るという強い思いがあったと小説『かちがらす』(植松三十里)は記す。

佐賀藩は、大砲と海軍により維新政府成立に寄与する。幕末維新期に活躍した佐賀藩士は閑叟を含め七賢人が挙げられているが、久米邦武も加えたい。佐賀藩士には現代に至る社会制度に地道に寄与した人物が少なくない。

大隈重信は政党政治、議会政治に貢献し、早稲田大学を創設する。久米は「神道は祭天の古俗」とする論文を書き、帝国大学教授を追われるが、日本史学実証研究に従事する。佐野常民は火器研究後、パリ博覧会に赴くほか、日本赤十字を創設する。副島種臣は「ペルー船」マリア・ルーズ号事件で、清国人奴隷を解放するなど日本外交のパイオニアとなる。大木喬任は江藤新平とともに東京遷都を建策するとともに、初期東京府知事となり東京の治安と活性化、さらに文部行政、民法編纂に貢献する。江藤は学制、刑法等司法制度整備にあたる。島義勇は箱館戦争に従事する一方、閑叟の助言をもとに札幌の条里制、北海道開発にあたっている。

藩校弘道館の果たした役割

が大きい。弘道館は一七八一年に創設、九十二年にわたり独自の教育活動を展開し、時に約千人も学んだといわれる。優秀な佐賀藩士は江戸期の最高の学問所昌平黌に学び、幕末二十五年間で学生五百五人のうち四十人を占め、抜きんでたとの調べもある。岩倉具視も佐賀藩の教育を評価して子弟を佐賀藩に委託している。

■十一月十九日 幕末維新の日 米交流人脈史(村井智恵氏)

参加者二十二名。

開国前後の日米間交流を主にアメリカでネット公開されている資料から大まかに紹介した。

一.ペリー以前の日米交流

ネット上にある資料として、初代サンフランシスコ日本領事のC.W.ブルックスが1815年に発行した「米船に救助された日本人のリスト」と、その中の一人であり、日米関係に大きな役割を果たしたジョセフ・ヒコを紹介した。当時の日米人を網羅する豪華な登場人物とダイナミックなヒコの半生もネットで読めるのでぜひお勧めしたい。・モリソン号事件と戊戌夢物語

高野長英が「戊戌夢物語」で語る「モリソン」は、船名と人名を混同している点を勝海舟が「氷川清話」でも指摘

しているが、実際は長英の語った人物(ロバート・モリソン(英))の支援者がオリファント商会(米)、モリソンの名を冠した同社の船がモリソン号、同社の代表がモリソン号に乗って来たキングである。従って、ロバート・モリソンとモリソン号は密接且つ直接的に関連している。或いは長英らは(或いは海舟も)そのことまでわかっていたのかもしれない。

二.開港後の日米交流

1859年の開港後、各開港地に居留していた外国人は当時出版されたディレクトリー(住所録)が参考になる。・アメリカ留学生

日本人留学生が激増する1870年より以前にアメリカにいた留学生は、主に、ミシシッピ州ブランズウィック(ラトガース大学とそのグラマースクールなど)、ボストン、ミシシッピ州アモンスターに新島襄、ミシシッピ州ブロクトンにも日本人がおり、その後日本にやってきたお雇いの多くは彼らと関係している。

後半は出席された方々の情報交換の場とさせて頂いた。特に解体新書時代についての解説を頂くなど、有意義な討論となったのは怪我の功名であった。

グローバル
ジャパン研究会
報告



担当幹事
畠山 朝男

■九月十五日 日本の通商政策とアセアン(講師:岩田 泰氏 経済産業省)

我が国にとり今ほど近隣のアセアンとの関係強化が重要になって来たことはない。経済産業省の中核とも云える通商政策局の総務課長として、また、広く培われたキャリアの視点でお話を頂いた。

八十年代、貿易問題が吹き荒れていた時、グローバルに問題を解決する為GATTがあり、九十五年のWTO設立につながった歴史を振り返ることから口火が切られた。アセアン各国に対する通商政策は、主に経済協力と既に進出して来た多くの日本企業に対する事業環境整備である。各国のリーダーは、強い意志で繋がって協力し合って行かなければ生きていけないという問題意識の下、共同体設立に導いた。特別に経済の為でもなく、崇高な目標を掲げていたわけでもなく、兎に角仲間内の喧嘩は止めて一つになろうとしたのが六十七年にできたASEANであった。

アセアンの経済発展の流れに相俟って日本の関わり方も変わって行く。アジアが貧しかった頃は経済協力が主体であった。九十年代のGreen Aid Planという、環境に着目した経済協力があつた。また進出した日本企業の原材料の現地調達必要性に対してはサプライヤーを育てる目的でサポーターリング・インダストリー協力を行った。

アセアンの経済が徐々に発展してきた二千年代には、次の段階である「経済連携」へと進んでいった。二〇〇二年にシンガポールとEPAを結び、順次、マレーシア、タイ、インドネシア、ブルネイ、フィリピン、ヴェトナムとも結び、ASEAN全体ともEPAを結ぶことになった。

ある程度進んでくると、お互いの市場を開放し合い、自由貿易を享受し合い、伸び行くアセアンの活力を民間ベースで日本の中に取り込んで行く産業協力の段階である。

最近進めているスタートアップ協力のようには日本のヴェンチャーを支援し、スケールアップを図る様に地元財閥や有力企業と手を組む事などを仕掛けてバックアップしている。また、アセアンが今課題となっている環境問題など、先んじて直面した日本経験、知恵やknow howの

活用では、政府間交渉に留まらずビジネスと一体となった協力にも力を入れている。講演の最後に岩田氏が十年前に三年間総務部長を務めたERIA(東アジア・アセアン経済研究センター)について紹介された。ERIAは2008年六月に東アジア経済統合推進のため、政策研究・提言を行う国際機関(「東アジア版OECD」として日本が主導して設立した)。

参加国はアセアン十カ国プラス日本・韓国・中国・インド・豪州・NZの六カ国(RCEPと同じメンバー)で、本部をジャカルタに置いた事が重要な意味を持つ。皆がこの地域で勝つ為にどうしたら良いかを考える際に、ERIASのような組織の意味があり、日本にとって通商政策の一つのツールとしてERIAを設立したことには大きな意味がある。

今年の七月一日、RCEPの閣僚会議が日本で初めて行われた。アセアン以外の国で会議が行われたのは初めてで、歴史的な事である。会議の冒頭安倍首相が岡倉天心の言葉を引いて、「Asia is One」とアセアン閣僚の前で話された。

■十一月十七日 多角的貿易体制の直面する問題点(講師:小田部陽一氏(元在ジュネーヴ国際機関日本政府代表部

特命全権大使

国際的には、トランプ政権によるアメリカファースト政策により、貿易戦争とも呼ぶべき状況に陥り、WTO(世界貿易機関)も危機に直面している。こうした状況もあり、世界経済見直しも下方修正となっている。

戦後、世界貿易については、GATTの八回に及ぶラウンド交渉を経て、一九九五年にはWTOが発足するなど、着実に進展し、加盟国も当初の二十三から百六十五になった。しかし、先日のAPECの会合に見られる通り、「多角的貿易体制」という言葉を入れることに米国が反対して宣言がまとまらない異例の事態が生じている。米国の通商拡大法(232条)による鉄鋼、アルミ製品への追加関税賦課決定、自動車、同部品への追加関税検討、さらには、通商法301条に基づく対中追加関税など、いわば、無法状態ともいふべき状況は大変憂慮される。同時に、中国についても、知財権の取り扱い、国営企業への補助金など、問題が多い。

も合意可能とすること等が議論されている。また、中国等の新興国の負うべき義務という大きな問題がある。

第二に、協定履行の監視について、通報制度がきちんと実施されていない点がある。

最後に、紛争処理メカニズムが一番深刻である。現在、上級委員七名の委員のうち、在籍は三名。米国がこれまでの裁決で、同国の関心案件で敗訴することがあったため、委員の再任をブロックしていることによる。来年二人の改選が拒否されると、委員ただ一人となり、機能不全となる。

WTOでの交渉が進まない中で多くのFTAができた(日本も、既に、十七件のEPAを締結)が、各々の関係が複雑になり、しばしばスパゲッティボールと呼ばれる。自分は、TPP、日欧(EU)EPAは、将来の貿易体制の階層となり、いわば、ラザニアとなることを期待している。

かつてアンチグローバルライゼーションの動きあったが、今は、グローバルサプライチェーンの時代。多角的貿易体制こそ、今後の世界、日本にとっても重要。先日、来日のアゼバドWTO事務局長と食事の際、「自由貿易は、空気や水のようなもの、なくなつたときに、その貴重さが分かる」と話したところ、パリで

開かれた第一次世界大戦終結百年記念平和フォーラムのパネル会議で、この言葉を紹介したとのことであった。(文責:塚本弘)

i-café-music&lecture
報告



担当幹事
植木 園子

■十月十七日 i-café-music@響

9月30日開催予定だったが、大型台風接近のため一週間延期して西荻窪『響』で開催された。ミニコンサート出演者変更の事態になったが、ソプラノお二人の協力で無事凌げ幸いだった。

【映像とお話】サンフランシスコ到着から、ワシントンへの鉄道の旅を見た後、芳野まいさんが、『政治とファッション』と題して、キー・ケネディと題して、歴史上もつとも若いアメリカ大統領夫人として絶大な人気を誇った彼女が、どのようにそのスタイルを「作り」"伝えたか、政権の価値を高めていったかを、豊富な図版や映像を駆使して解説。大統領夫人になった途端に、個人的趣味より、大統領の政治活動をサポートするファッションに徹し、なおかつファッション

をリードしたと。

【トミニ・コンサート】ソプラノ森美智子さんと武藤弘子さんが、ピアノの植木園子さんともども一週間の準備で『アメリカの映画音楽から他』と題して、『ウエストサイド・ストーリー』『オズの魔法使い』『ティファニーで朝食を』など懐かしい歌をご披露。i-Café Singersの『峠のわが家』『なつかしきケンタッキーのわが家』などアメリカ民謡を歌った。(岩崎洋二)

■十一月十八日 i-café-music@響

【映像とお話】ボストン訪問部分を見た後、静岡文化芸術大学教授奥中康人先生が『和洋折衷歌謡、苦難の歴史』と題して、明治期の西洋音楽導入の諸問題を語った。

二十周年記念シンポジウムのプレ・セミナーの講演「岩倉使節団と西洋音楽」国家と音楽』が大好評で再登場の機会を窺っていたが、今回、浜松からお越し頂き実現した。『国家と音楽』(2008年サントリイ学芸賞)や『和洋折衷音楽史』(2014年)等の著書を踏まえて、『明治期の唱歌は「日本のうた」の原点だが、実は、「西洋のメロディ」と「日本語の歌詞」の危ういバランスの上に成立している。そもそも、西洋のメ



【お話】奥中康人先生

ロディは、日本語と相性が良いとは言えない。このような視点から、近代日本の「和洋折衷」スタイルの音楽の歴史―唱歌からロックまで―を振り返りたい」と前置きして、借用した西洋メロディに日本語を当てはめることから始まった西洋音楽導入が、滝廉太郎に至って日本語歌詞にマッチした独自の作曲をするまでの苦難の歴史を明解に語った。

【トミニ・コンサート】中澤孝子さんが、『日本に根付いた西洋音楽』と題して、瀧廉太郎の『組曲四季』や庭の千草(The Last Rose of Summer)等を植木園子さんのピアノ伴奏で熱唱。i-Café Singersも戊辰戦争で歌われた品川弥二郎作詞、大村益次郎作曲と云われる『宮さん宮さん(トランヤレ節)』や日本最初のワルツ『美しき天然』などを披露した。(岩崎洋二)

催し案内

2019年(平成31年)1月~3月

☆全体例会

二月十四日(木)

〔第一部 講演会〕

18:30(開会18:20)

日比谷図書文化館四階小ホール(先着七十名)

『岩倉具視の実像』坂本一登氏(國學院大學教授)

〔第二部 出版記念レセプション〕

20:00~

プロント(日比谷図書文化館地下)

会費:七千円(ミネルヴァ書房新刊書代含む)

☆米欧回覧実記輪読会

23:10~14:50日比谷図書文化館セミナールーム

会員六百円(非会員八百円)

一月十七日(木)

第二卷『北部巡覧ノ記上』

ナビゲーター:吉原重和氏

二月十三日(水)

第四卷『北部巡覧ノ記中』

ナビゲーター:吉原重和氏

☆英書(The Complete Journal of Townsend Harris)輪読会

15:00~17:00日比谷図書文化館セミナールーム

会員六百円(非会員八百円)

一月十七日(木)

Dec.17,1857~Jan.25,1858

ナビゲーター:市川三世史氏

二月十三日(水)

Jan.26,1858~Feb.17,1858

ナビゲーター:未定

☆グローバルジャパン研究会

二月九日(土)

13:30~16:30

国際文化会館401号室

会員千円(非会員千五百円)

『オーブンガバメント、オーブンゲータ、オーブンガバナンス』奥村裕一氏(東京大学教授)

☆I.cafe-music@西荻窪響

一月十三日(日)14:00~17:00

〔お話〕『インターネットの次に来るもの』服部桂氏(元朝日新聞社)

〔4〕ソプラノ中澤孝子氏(元劇団四季)ミュージカル

「エビータ」から他
会員二千五百円(非会員三千円)軽食・ワイン付き

☆I.cafe大佛次郎 天皇の世紀を見る会

13:10~14:50

日比谷図書文化館セミナー

会員八百円(非会員千円)

第六回 一月十七日(木)

第十一話『決起』奇才・高杉晋作の短すぎた生涯、第十二話『義兵』土佐勤皇党の斃れた志士たち

ナビゲーター:小野博正氏

第七回 二月二十一日(木)

第十三話『壊滅』時流に乗り遅れた天狗党の悲劇

ナビゲーター:塚本弘氏

特定非営利活動法人

「米欧亜回覧の会」ご案内

趣旨 この会は「岩倉使節団」に興味をもち、その記録である「米欧回覧実記」に関心を抱く人々の集まりです。この歴史的な大なる旅と「実記」は、まさに「温故知新」の宝庫といえましょう。この素材を媒体に歴史を学び、現代の直面する諸問題についても自由に語り合う会です。

会員 趣旨に賛同する人なら誰でも入会できます。

例会 年に4回、全体例会があります。

部会 テーマ別に読む会、歴史部会、グローバルジャパン研究会等があり、映像サロン・旅行会・研究会・シンポジウム等を行っています。

機関紙 年に4回、機関紙を発行し活動報告や会員の意見発表、情報交換の媒体とします。

役員 理事長(泉三郎)他理事および監事構成、会員の中から幹事十数名を選び、運営を担当します。

会費 年会費6,000円とし、主として通信費及び機関紙代に充当します。例会・部会・講演会などについては、その都度の会費とします。なお、遠隔地居住者、仮入会希望者、学生には地方会員、準会員、学生会員の制度もあります。

事務局 「米欧亜回覧の会」事務局 近藤義彦 〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 1-1-5-707 E-mail:info@iwakura-mission.gr.jp TEL 090-2658-1423

入会申込

入会申込書はホームページと事務局にあります。年会費などのお支払いは下記口座をご利用ください。

ゆうちょ銀行

振替口座(当座預金) 00180-0-635365 店番:019

総合口座(普通預金) 8804433 店番:018

三菱UFJ銀行 222-(普通)0544121

特定非営利活動法人米欧亜回覧の会

歴史に学び、未来を考えませんか?

NPO法人米欧亜回覧の会 公式ホームページ

<http://www.iwakura-mission.gr.jp>

Facebook

Iwakura Mission Society 岩倉使節団・米欧亜回覧の会

編集後記

◇いよいよ、二〇一六年に総力をあげた設立二十周年記念グラウンドシンポジウムの報告書が相次いで刊行されます。一月には「岩倉使節団の群像―日本近代化のパイオニア―(ミネルヴァ書房)は四百頁を越える上製本として市販もされます。そして、二百頁の当会の報告書「岩倉使節団と日本の近代」(仮題)が続きます。グラウンドシンポジウムの取り組みは三日間で終了するものではないことの証しとなる二冊だと思えます。

◇二〇一九年は、二月十四日、日比谷文化図書館で開催される講演会と、報告書二冊の出版記念祝賀レセプションとビュッフェスタイルの宴の二部構成という、やや真面目な年初の催しのお知らせがトップ記事となりました。

◇当会には、定着してきたオペレッタなど音楽の楽しみ他にも、旅行という大きなテーマがあります。今号は、十一月の密度の濃い佐賀旅行の報告(二頁)と、『実記』が記述した建物や街の姿が今も残るストックホルムで、使節団の見た光景を思う、会員の浜地氏の訪問記を掲載(三頁)しました。